

たくましく 心豊かな 地球市民	瞳かがやく 附属松本中の子ら すすかけの森	令和8年1月9日（金） 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だより 第8号
-----------------------	---------------------------------	--



年末年始休業が終わり、校内には元気な生徒の声とともに活気が戻ってきました。突然の雪に驚きながらも、笑顔ではしゃぐ生徒の姿からは、寒さを忘れるほどの明るさが感じられました。

そのような中、8日に行われた校長講話では、年末に起きた世の中の出来事を例に挙げながら、「納得解」という考え方を通して、自分とは異なる価値観を理解しようとする姿勢の大切さについて考える時間がもたれました。自分とは異なる価値観を理解しようとする努力することは、本校の学校目標「たくましく心豊かな地球市民」としての生き方につながるものであり、生徒たちにとって今後の学校生活を見つめ直す機会となりました。



地球市民として ～年末の出来事から～

明けましておめでとうございます。いよいよ後期後半が始まりました。

さて、学校目標「たくましく 心豊かな 地球市民」の地球市民について話を進めていきたいと思えます。

年末に、あるテレビ局で放送されたバラエティ番組を、皆さんは知っているでしょうか。この番組には100人の一般審査員がおり、その中から毎回5人が無作為に選ばれます。芸人の方は、「一発ギャグ」「モノマネ」「ショートコント」「モノボケ」「サイレント」といったジャンルの中から一つを選び、パフォーマンスを行います。1st チャレンジから4th チャレンジまでは、選ばれた5人の審査員のうち3人が笑えばクリアとなり、最後の5th チャレンジでは、5人全員を笑わせなければなりません。すべてのチャレンジをクリアすると、芸人の方は賞金を獲得できるという番組です。

さて、1月4日、この番組のホームページに次のような記事が掲載されました。

「審査員の方々を誹謗中傷するようなインターネット上の書き込みが見られますが、このような行為はお控えいただくよう、お願い申し上げます。」

インターネット上での誹謗中傷は、名誉毀損罪や侮辱罪などの犯罪行為にあたるおそれがあり、決して許されるものではありません。しかし、それがわかっていてもしてしまう人が後を絶ちません。そのような行為をしないために、今回はあえて“笑わなかった人を批判するのは、なぜか”考えてみたいと思います。皆さんどうしてだと思いますか。

笑わなかった審査員を批判するのはなぜか？

自分は面白いのに、笑わないのはおかしい

自分と価値観が違うのは、おかしい

「こんなに面白いのに、なぜ笑わないんだ」
「自分の好きな芸人さんの芸を笑わないのはおかしい」
「自分で申し込み笑いに来ているのに、笑わないのはおかしい」

「番組がやらせなのではないか。やらせを無くすために、問題提起をすべきだ。」

色々な動機があると思いますが、根本には「自分が面白いのに、笑わないのはおかしい」という考えがあるように思います。つまり、「自分は面白いのに、笑わないのはおかしい」という考えは、「自分と価値観が違うのは、おかしい」につながる面があります。

自分と価値観が違うのは、おかしい



住む場所や住む環境が違えば、価値観が違うのは当たり前



地球市民として、大切なのは互いの違いを理解し合うことが重要

地球市民として、他者理解は特別なことではない

教室で、常に求められていること

私たちは「A」だ

彼らは「B」だ

「A」の立場、「B」の立場、立場をお互いが理解し合い、私たちと彼らが納得できる納得解「A」「B」「C」を見つける

世界には多様な価値観があり、これは住む場所や環境が違うのですから当然のことです。地球市民として、大切なのは価値観を否定するのではなく、違いを理解し合うことが重要だと思います。地球市民として、他者理解は特別なことではありません。教室で常に起こっていることだと思っています。私たちは「A」だ、彼らは「B」だ。「A」か「B」のどちらかにするかを決めなければいけないことはよくあると思います。これは、大人になって社会に出てもあることで、皆さんは非常に大事なことを学んでいるわけです。

しかし、こういう議論でやってはいけないのが、自分と違う意見を排除しようと考えことです。ここには、相手を理解しようという意識が欠けています。これは、いじめにつながる考え方です。大切なのは、「A」の立場、「B」の立場をお互いが理解し合い、私たちと彼らが納得できる納得解「A」なのか「B」なのか、はたまた「C」なのかを見つけることが重要なのだと思います。

地球市民として、お互いを理解しようと努め、納得解を探してほしいと願っています。

そして最後に、前回ご紹介した武井美千代さんの講演について、生徒の皆さんの感想を、あらためて聞いてほしいと思います。

「武井さんのお話を聞いて、今までの自分の考えが変わりました。」

「いじめは絶対に「人としていけない行為」「許されない行為」と認識していました。しかし、今日のお話をお聞きして、「人としていけない行為」でおさまる話ではないと深く思いました。」

「いじめられた方は生涯傷を負って苦しんで生きていくのに、いじめた方は楽しい人生を歩んでいくなんて腹が立ちました。」

いじめは生涯忘れられないほど、辛いことなんです。

自分と違うからと言って、いじめても良い理由にはならない。

自分と違うからと言って、生涯苦しめても良い理由にならない。

自分と違うとを感じる身体的特徴、たとえば太っている、痩せている、顔や肌など。

自分と違うと感じる行動的特徴、たとえば〇〇ができないとか、〇〇が苦手とか、単独行動をすることか、予想外の行動をすることか、思考的特徴、異なる価値観など。

こういう自分との違いを感じたからと言って、生涯苦しめてよい理由にはならないのです。

感想はさらに続きます。

「ケンスケさんがたくさん苦しくて悲しくて辛い思いをしたはずなのに「この経験が誰かのためになってほしい」という考えまでたどり着いたこと、心から尊敬します。」

「本日の講演で学んだいじめの重さや怖さを心から受け止めて、私は救う側になる。」ということ自分を約束しました。」

救う側になる。いじめをやめさせる人になるという決意が素晴らしいと思います。地球市民として、お互いを理解しようと努め、納得解を探し、いじめを許さない学校にしていきたいと思います。

いじめを許さない学校

地球市民として、
お互いを理解しようと努め、
納得解を探して欲しい